

(様式2)

2018年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書
(最終報告)

2019年 3月 29日

福岡女子大学学長 殿

申請者 所属名 国際文理学部環境科学科
職名 准教授
氏名 岩崎慎平



事業名 (テーマ)	学生寮および住宅地を対象とした環境配慮行動の促進に向けた環境コミュニケーションの検討および実践		
事業実施者及び 事業分担者	岩崎慎平	大学院生及び 学外協力者等	
<p>活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること)</p> <p>※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。</p> <p>(活動内容)</p> <p>本事業は、学生寮および住宅地を対象に、①環境配慮行動の促進に向けた取り組みを学生と協働して事例収集し、②優良事例を参考にしながら対象地の学生・住民を行動変容するための環境コミュニケーションを企画・実践し、③その実践に対する評価を行うことを目的として活動を実施した。具体的には、環境生活学研究室に所属する学生参加し、学生寮(福岡女子大学国際学友寮なでしこ・マヒドン大学キャンチャナブリキャンパス学生寮)およびUR団地をフィールドに、省エネ行動・食品廃棄行動・リサイクル行動の実態を明らかにするとともに、これら環境配慮行動(または要環境配慮行動)の促進に向けた環境コミュニケーションの検討および実践を行うことを目的とした。</p> <p>福岡女子大学国際学友寮なでしこにおいては、エアコンの使用量大小にかかわらず光熱水費が一定であるため、節電に対して経済的インセンティブが働かない状況下にある。そこで、エアコンの省エネ行動を促すための仕掛けを探るために、先行研究の文献収集を行うとともに、ルーヴアン大学行動工学研究グループ研究者らとの連携の下で、省エネ行動の促進に向けた環境コミュニケーションの検討を行った。</p> <p>マヒドン大学キャンチャナブリキャンパス学生寮においては、学生が共同冷蔵庫に保管したまま置き忘れて衛生状態が悪くなった食品が清掃員によって選別・廃棄されていることが毎週の如く報告されていた。そこで、同学生寮の食品廃棄の実態を明らかにし、その得た知見を基に、寮生に情報フィードバックに基づく食品廃棄行動の変容を検証する企画を考えた。同企画を実施すること、さらには海外フィールドにおける環境学習機会の提供を目的に、「タイ国際共同教育研究推進プログラム」と称して海外研修プログラムをパイロット事業として実施した。</p> <p>UR団地においては、家庭ごみ排出量の増加傾向と反比例して団地を含むコミュニティで実施されている地域集団回収が減少傾向にある。同取組は地域団体や企業が独自の方法で行っているため、排出者の情報不足がその原因の1つとして挙げられるため、UR都市機構九州支社と連携して、地域独自の資源リサイクル情報を住民にフィードバックして、地域集団回収の改善効果を検証することを企画した。</p> <p>上記の活動を遂行するために、本提案事業の予算執行の他、CASEUF・競争枠(代表:野依先生)・学生教育実習費・個人研究費の一部を使用した。</p> <p>(成果)</p> <p>上記3プロジェクトを下記の通り実施した。</p> <p>福岡女子大学国際学友寮なでしこにおいては、先進事例の収集ならびにルーヴアン大学行動工学研究グループ研究者らの助言を踏まえ、エアコンの使い方と環境問題の関連性を示す視覚情報プロンプトが表記された異なる3種類のステッカーをデザインし、寮部室に配備されたエアコンのリモコンに掲示した効果を検証する実験を開始した。</p> <p>マヒドン大学キャンチャナブリキャンパス学生寮においては、学生5名を連れて2019年1月7日から1月12日にかけて「タイ国際共同教育研究推進プログラム」海外研修を開催して、現地視察および協力研究者との打ち合わせを実施した。具体的には、マヒドン大学環境資源学部の Thamarat Phutthai助教授と連携して、同大学キャンチャナブリキャンパス学生寮の見学および同キャンパスで技術員を務めるKrid Khaobang氏を交えて寮生の食品廃棄に関する実態調査の手法について検討を行った。そして、研修終了後、学生および協力研究者との協議を経て、2019年1月30日から3月29日までの間に共同冷蔵庫から廃棄された全ての食材を組成調査してデータを収集した。また、研修会においては、キャンチャナブリキャンパス視察の他、観光地における環境コミュニケーションの検証実験サイトの見学を含む環境学習を行い、その学習を基に参加学生主体で「2019年タイ研修報告書」を作成した。</p> <p>UR団地においては、福岡市および対象サイトの地域集団回収の実績および現状を整理し明らかにするために、対象サイトの地域集団回収の参与観察、エコライフめぐる推進協会・臨海3Rステーション・廃棄物資源循環学会での情報収集、および福岡市環境局にヒアリング調査を行い、それらの情報を基に対象UR団地の「資源回収のてびき」を制作した。そして同冊子を全戸配布し、配布前後にみる地域集団回収の実績値および質問紙調査に基づく団地住民のリサイクル行動の影響を評価した。本研究の成果は次年度の学会にて報告する予定である。</p>			



事業費の交付決定額(円)

250,000 円

事業費の決算額(円)(領収書を添付すること)

250,000 円

事業費の決算額の内訳(円)

費目	品名、仕様など	金額
消耗品費		
印刷製本費		
旅費交通費	タイ国際共同教育研究推進プログラムの旅費	18,520
	タイ国際共同教育研究推進プログラムの保険代	32,173
通信運搬費		
備品費		
その他	マヒドン大学カンチャナブリキャンパス学生寮生の食品廃棄実態に関する業務委託	199,307
合 計		250,000

※費目等は適宜追加・削除すること